

会議録（概要版）

会議の名称	第8回 学校規模学校配置適正化検討委員会
開催日時	平成23年5月24日（火） 13時30分～
開催場所	小川総合支所 大会議室
出席者	<p>【出席委員】 水本徳明 中村強 山口良元 矢口忠衛 福田智彦 西村浩一 邊見亜津子 鈴木美樹 中島淨 飯島利武 沼田マサ</p> <p>【欠席委員】 野村武勝 中川稔 小林義治 星野広幸 小仁所浩 立原幸子 竹内昌信</p> <p>【教育委員】 澤島照子 中村三喜 沼田新 鶴町庄二 本田仁子 沼田和美</p> <p>【事務局】 小松修也 戸塚俊宏 成井修也 海老澤光志 久保田一江 佐々木浩 菅谷清美</p>
協議案件	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校規模学校配置適正化にかかる基本方針について ・ 学校適正化にかかる情報交換
会議資料	別紙 (会議次第、 他)
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開 (傍聴者 1 人)

(開会 13:30)

委員長 前回議論いただいたアンケートについて報告したい。骨格は前回のものに基づいて、ご意見に従って修正した。これを実施していくということでご了承いただきたい。具体的な実施方法等については事務局から説明いただきたい。

事務局 実施状況は、5月20日に一般市民対象者として、1,000世帯に郵送した。保護者は、小・中学校の全保護者ということで準備を進めている。保護者3,671名、小・中学生で重複分を除く実家庭数。教員は、講師・非常勤を除いた296名。総計4,956名に実施。

委員長 内容を検討して方針を作成していくのはこの委員会。委員の皆さんの意見で作っていく。アンケートで出た結果がそのまま答申となるわけではない。あくまでもこの委員会で方針を決定していくというような考え方で、アンケートを実施したい。

協 議

- (1) 学校規模学校配置適正化にかかる基本方針について
- (2) 学校適正化にかかる情報交換

委員長 (1)、(2)はひとつながりのようなことになるが、何ヵ月後かには基本方針(案)を出さなければならない。そこに向けての議論を開始したい。今までのことを振り返っていただきながら、学校のあり方について今どんな考えをお持ちかということを出していただきたい。

委員 学校訪問をする機会があり小・中学校を何校か見て、学校の規模を含めた施設の格差がかなりあるという意識を持つようになった。地理的な環境が違うのは当然だが、同じ市民でありながら義務教育という環境の中でこんなに格差があっているのかという思いを持った。同じ土俵ではないというように感じた。

過去や母校を愛する気持ちより、50年先を見据えていく選択がこの委員会の使命だと思うようになった。まだ自分自身で方向性は定まっていないが、批判を恐れることなく自分の選択をしたい。そのためにももう少しいろいろなことを学ばないと最終的な結論は出ないと思っている。それぞれの地域の歴史、学校の歴史について少し知りたい。クラスの人数はどのくらいが適正なのか。学校の規模ではなく、学級の規模もいろいろな先生の話を知りたい。それから結論を出したい。

委員 大きな学校も小さな学校も先生方はメリット・デメリットを考えていて、デメリットをどうやって消すか、メリットをどうやって生かすかを考えていた。

一番大事なのは先生と子どものつながり。今の若者たちがどういう状況にあるのか知りたい。私たちと状況が変わっている点があれば知りたい。

委員 自分の子どもの通う学校が小規模校の対象と知って驚いた。少ない児童数でも何の不満もなかったので現状維持でいいという考えでいた。話を聞いたり学校訪問したりするうちにもっと多い、統合という形になっても悪くはないと漠然だが考えるようになった。子どもはどんな状況でも適応する能力があるが、保護者や地域住民の理解を得るのは大変だと思う。

委員 親の意見としてだが、小川北中学校が7学級から6学級になり、4月の先生の異動が講師を含め10人だった。委員会で勉強していたので、1クラス減ることによって先生が減ることを知っていたので私は理解できたが、他の保護者は何でこんなに異動があるのかという意見を聞いた。1クラスのくくりをもう少し幅を持たせて考えていいのではないかと思った。

委員 小学校12学級、中学校9学級が適正規模であると文科省は基準を設けているが、それは何をもって適正規模なのか。ずっと疑問を持ち続けている。大規模がいいか、小規模がいいかはそれぞれ長所・短所あると思う。学校規模が大きかろうが小さかろうが、何人の児童生徒を担当するのが一番適正規模なのかを議論する、検討する、研究するのが大事なのではないか。アンケートの結果である程度の人数にまとめたほうがいいのではないかと言う意見が沢山出てくるのなら、そういう方向に進めるべきではないかと考えている。

委員 周りから聞いた話や、学んできたことから考えると先生の数や適正規模があれば先生の数も増えるとか聞くと、先生に無理をさせて子どもの教育をさせるというのは、私は本来先生もゆとりを持って教育をしてもらったほうがいいのではないかという気持ちがある。先生は朝早く出勤し、中学校では部活動を持てば夜遅くまで付き合っ、自分の家庭の生活がない。仕事とはいえ、身を挺してというのか、そういうことを押しつけてその中でいい教育をできるのかと思う。

1学年で1人や2人になってからあわてて統合するより、今時間があるときにしっかりと基本方針を練っていったらと思う。

委員長 文科省の調査によると、勤務時間は中学校の先生で平日ほぼ12時間。そのうち休息・休憩の時間は10分から15分くらい。土・日も部活や生徒指導で仕事をされている。そういう実態がある。学校の規模の問題が先生の数の問題に関わっていて大事な問題。

委員 適正な配置となると地域を考えなければならない。これは大変難しい面が出てくる。まずアンケートを見てみたい。それによってこの委員会がさらに突き進んだ考え方を示していくべきであると思っている。同時に教育委員会はどういう考えをしているのか。この検討委員会で決めたことをそのままやるんだという考えなのか、教育委員会としての考え方もあるのか、そういうことも聞いてみたい。小さい学校は小さい学校のいいところがあるので、適正な規模は数

合わせでは難しいではないか。

委員 学校訪問をさせてもらった時に、大規模の学校と小規模の学校の両方の良さ
と、メリット・デメリットを見せてもらった。方向付けはそれなりに答えが出て
くると思うが、国・県の基準みたいなものも出ているので、そういうことも頭
に入れておかないと大変なのかと思う。アンケートの結果は大事に尊重しながら
答えを出すのかなと思う。義務教育の部分なので、行政が少しリーダーシップ
をとってもいいのかと思う。子どもたちをもっている保護者は比較的統合等
に関してそれほど難しく考えていないが、その学校を卒業した我々くらいの年代
の人は歴史を重んじて学校を残したいというのは比率的に高い。

委員 何人が適当か、何クラスが適当かは人数、学級は思うように答えが出ていな
いのが事実。人数がどのくらいが適当なのか、アンケートの中で数字が出てく
ると思うが、委員、行政と一緒に考えていってやっていきたい。

委員 地区の住民として考えていくと、戸数はそのまま、子どもたちは外へ出た
まま帰ってこない。今は多いところも、ある時期を過ぎると子どもたちがいな
くなってしまいうような、高齢者ばかりの地区もあり得る。H委員が言った50年
先を見据える形の方のうで決断を下していく必要があるのかと、つくづく
感じる。

子どもが少なくて職員数がゆとりを持って配置されるのであれば、それに越
したことはない。勤務時間等は業務の軽量化と言われながら、現実には関係な
く頑張っている職員がほとんど。ある程度の規模の中で校務もある程度整理さ
れて分担されてやっていける規模と言うのはあるのだろうと思う。

いろんな施設整備よりも、人的な環境をしっかり押さえることが優先される
べきだろうと思う。教員が関わる人数が少なければ少ないほど目が行き届くと
思うが、ある程度の関わりを持ってその中で子どもたちが成長していく姿を見
ていくとすれば、4人グループで6ぐらいできる24、最低その辺はあっていい
のではないか。

委員長 一通り意見をいただいた。アンケートの結果出てくる前に何回か勉強する機
会にしたい。

15 : 32 閉会

次回：6月21日（火）